

平成30年度特定鳥獣保護管理検討会（第2回）

日時：平成31年3月20日（水）午後2時～

場所：愛知県自治センター 5階 研修室

（1）平成31年度市町村実施計画（イノシシ、ニホンザル、ニホンジカ）（案）について
（委員）

被害額は減っているが、捕獲目標に対して捕獲した数が少ないケースがあるが、どう考えるか。

（事務局）

シカの場合、被害額は減っているが、個体数は増えており、もっと捕らなくてはいけないと考えている。

（委員）

被害状況と個体数調整、本来はこれらを別々の指標で見えていって、その上で、どういう関係になるのか、考えなくてはならない。

被害が発生する地域で耕作地が少なくなっていれば、被害は減る。また、捕獲以外のフェンス等の防除施策が進めば、被害は減るが、個体数は増える可能性もある。

その辺の関係を意識して、きちんとデータの解釈をする必要がある。

（事務局）

山間部では、防護柵等の整備が行われており、また耕作放棄地も増えているため、農業被害は減っているが、個体数は増加していると思われる。

（鈴木構成員）

設楽町では、山沿いの農地は耕作をやめてしまう状況である。

いろいろな現地での聞き取りによると、農業被害は以前より減っているが、シカの個体数は感覚的には増えている。

（委員）

被害は、数字だけでは評価はできないものがある。他の方法で、被害の全体像、動向について、つかむ必要がある。例えば、被害の程度を5ランクぐらいに分けたり、前年と比べて感覚的に増えているかどうか、そういうデータを経年的にとると、例えば、被害が激しいととらえた集落が増えたのか減ったのか、どの地域で増えたのか、そういうことがわかる。

それでかなり全体像を空間的なイメージも含めて出すことができ、イメージが出れば、どのような対策をとるべきかわかる。

今回の検討会で出されたデータも加工の仕方だとか、整理の仕方を考えれば、かなり役立

つ。活用するにはどうしたらいいか、事務局として検討してもらいたい。

(委員)

市町村に対して、被害動向、どのように捕獲すべきかをわかりやすく説明する必要がある。

(事務局)

3月に、本日と同じ資料を使い、どこで被害が多く、どこで捕獲すべきか等、参考とするよう説明しています。

(委員/座長)

被害対策としては、電柵やフェンスの効果があると思う。

対策をやっていないところでは、目撃や痕跡等も増えているのではと思う。

(農業振興課)

被害の減少は、侵入防止柵の整備によって達成しているところが大きいと考えている。

被害金額は、その年の農作物の単価にも影響するので一つの目安として見て、目撃情報や生息密度の推定を重視していくのがよいと思う。

(委員)

被害金額を使うやり方は、何十年もやってきた手法であり、これからも使うべきである。

それだけじゃなく、別のなるべく簡単にできる方法で指標をとっていけば、判断ができるのではないか。

(事務局)

イノシシについては、豚コレラの関係で年間2万頭を捕獲したいと考えている。

今後、委員の皆様と相談していきたい。

(委員)

豚コレラについては、野生イノシシの管理を畜産の視点、発想だけでできるのか。

野生鳥獣の専門家の意見を入れていくべきである。

(委員)

どうすれば個体数を減らせるのか、実証するチャンスだと思う。

(委員/座長)

わなでの捕獲を増やすことについて、来年度は講習会をやるのか。

(事務局)

免許を取った人を対象に、新しく講習会を実施する予定である。

(委員)

わな猟の準備から実行、片付けまでの流れをしっかりと教えないといけない。わな猟免許を取った人の半数近くに成果がなく、2～3年でみんなやめてしまうことが繰り返されてい

る。成果があれば続けられるため、初心者には捕獲を経験させて、その中からセンスとやる気のある者を育てる必要がある。

(事務局)

実習も含めて実施する予定である。

(委員)

イノシシの捕獲は、幼獣ではなく、成獣のメスを取るのが望ましい。メスを選ぶのは難しいので、捕獲した成獣の割合を評価の指標とするのがよい。

ニホンザルは、群れ単位での管理が望ましい。どのように捕獲し、捕獲後の状況はどうなったか調べるべきである。

(事務局)

ニホンザルについては、農総試の開発した「おりべい」で、十数頭捕獲した実績がある。新城では、空気銃で大きい個体を捕獲している事例がある。

(委員)

岡崎でニホンザルの被害が増えている理由は何か。

(事務局)

岡崎の捕獲実績は少ないが、たくさん捕る計画を立てており、今後の状況を見ていきたい。

(委員)

ニホンザルが一番、対応が難しい。捕れそうなところで捕るしかないかもしれないが、捕った結果どうなったのか、それをよく確認していく必要がある。

(委員)

ニホンザルについては、そんなにたくさん捕られているわけではないのに、被害面積も被害金額も減っている。理由がよくわからない。

(委員)

サルの被害状況について、県全域でなくても、どこかでモニタリングしないと、ずっと感覚だけでやっているところから抜け出せない。

ニホンジカは、捕獲個体の半分以上がメスであることは、いい捕り方だと思う。

これだけくりワナが増えてくると、そろそろ全国的に錯誤捕獲問題が出るおそれがある。錯誤捕獲の実態の把握、及び対策を考えていかなければならない。

(2) 平成 31 年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画 (イノシシ、ニホンジカ) (案) について

・意見なし。